

成長の未来図

識者に聞く ①

世界恐慌や冷戦を乗り越えてきた資本主義が新たな危機に直面している。次の発展のモデルをどう描くべきなのか。成長の未来図を有識者に聞く。初回はインド中央銀行総裁を務めた経歴を持ち資本主義研究で知られる米シカゴ大学のラグラム・ラジャン教授。

——資本主義のあり方が議論になっていきます。「あらゆる人に平等な機

シカゴ大教授 ラグラム・ラジャン氏



Raghuram Rajan 国際通貨基金(IMF)チーフエコノミストなどを経て、2013~16年インド準備銀行(中銀)総裁。近著「第三の支柱」ではコミュニティの再興を訴えた。

人に投資し技術生かす

でしょうか。

の介入をどう考えますか。

細かい執行や監督は地域社会や地域政府に移譲する。公平な競争環境を作ることが失われたバランスを取り戻すことにつながる」

——企業はどう変わるべきですか。

「8割を本業に集中しつつ、残る2割で社内外の人材支援や地域・教育での社会貢献をするイメージだろう。企業の社会における目的と役割は良い製品やサービスを提供すること、まずは本業で成果を出すべきだ。環境や人権などに配慮することは持続的な経営のために当然な整備すること、IT(情報技術)やデータといったテクノロジーを生かして

会を与えることが資本主義の最大の力のはずなのに、

「新型コロナウイルスの

が政府の本来の役割だ」

ることで、まずは本業で成

教育や栄養状態、家庭環境など前段階で格差が広がっ

パンデミック(世界的大流行)では企業も国家も打撃

「政府がより取り組むべきなのは、民間の健全な競争や新規参入を促す市場を

果を出すべきだ。環境や人権などに配慮することは持

てしまった。学歴のない人出身者が非常に多い。富裕層が去った地域の教育は荒

をを受けた中低所得層を救えないことが顕在化した」

「日本では政府が企業に賃上げを求める動きも強

いけるかが重要になる」

が事業で成功することは資本主義のダイナミズムであり、米国の象徴だった」

ハードルは高まった」

「聞き手は税財政エディタ

小滝麻理子)

「今は裕福な親の元に生

——どこに原因があるの

まっています。国の民間へ

だ。政府が大原則をつくり

小滝麻理子)